

オガサワラシジミについて

1. 分類等

チョウ目 シジミチョウ科

オガサワラシジミ

Celastrina ogasawaraensis

絶滅危惧 I A 類（環境省レッドリスト）



【オガサワラシジミの成虫(オス)】(公財) 東京動物園協会

2. 形態的特徴及び生物学的特性

- 小笠原諸島に固有の全長 12～15mm 程度の小型のシジミチョウ。オスの羽表面は暗青色で外縁部が黒い。メスの羽表面は暗青色～黒色。裏面は灰白色で後ろ羽は青緑色を帯び、小さな黒い斑紋がまばらにある。国内に広く分布するルリシジミに近縁とされる。
- 年に数回孵化し（次の世代交代までの期間が飼育下ではおよそ 2 か月）、冬期の個体数が少ないが、年間を通じて見ることができる。
- 生息地は自然性の高い森林であり、成虫の活動時間については、朝から夕方までの日が差している時間帯。幼虫の餌はシソ科のオオバシマムラサキ、クスノキ科のテリハコブガシやコブガシなどで、花蕾を好む。

3. 分布状況

小笠原諸島、父島列島の弟島・兄島・父島、母島列島の母島・姉島で分布が記録されているが、近年確認できているのは母島のみ。

4. 現在の生息個体数

かつては父島、母島に多数生息していたが、父島では 1980 年代前半に激減し、1992 年以降、生息が確認されていない。母島でも少数が確認されるのみで、野生絶滅が危惧されている。2018 年以降、確実な記録がない。

5. 生息を脅かす要因

外来種のグリーンアノールによる捕食が圧迫要因として考えられるほか、干ばつや台風による被害や開発による影響、アカギ等外来植物の侵入による植生の変化、コレクターによる捕獲圧等も減少要因としての可能性が指摘されている。

6. 保護増殖事業の概要

- 平成 20 年に種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定、平成 21 年保護増殖事業計画(文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省)策定。
- 母島の新夕日ヶ丘においてグリーンアノールの侵入を防ぐ保護柵を設置。
- 平成 17 年より多摩動物公園において、オガサワラシジミの飼育下繁殖の取組を実施。
- 令和元年より新宿御苑において分散飼育を実施。

7. 他法令等による保護の状況

昭和 44 年に国の天然記念物に指定。